

未来をひらく鳥取学

「世界とつながる鳥取県」

日 時 平成25年7月20日（土）

13：30～15：15

場 所 倉吉未来中心（小ホール）

鳥取県は世界とつながっている

私たちは何げなくこの鳥取県に暮らしていますが、いろいろな形で世界とつながっています。地球上で、私たちは、人間同士分かり合っていかなければなりません。その意味で姉妹都市交流などがありますし、経済交流がどんどん進み、文化も国境を越えています。子供たちが外国で学ぶ機会も増えていきますし、日本の農産物を海を渡って売りに行く、そんな時代になってきています。もっと身近に外国とのお付き合いを考えることが大切なのではないかと思えます。

今年5月に第64回全国植樹祭が鳥取県で開催され、全国の皆様に鳥取からグリーンウエーブを起こしていくと呼びかけました。グリーンウエーブという言葉は鳥取で使い始めましたが、実は国連でも同じ言葉を使っていました。グリーンウエーブというのは、5月22日の生物多様性の日に植樹しましょうという運動です。日本でまず木を植えて、今度は中国、モンゴル、さらにヨーロッパ、アメリカと、地球が回るに従ってだんだんと緑を植える所が波のように動いていきます。そのグリーンウエーブに今年から参加することになりました。

昨年、国際まんが博とマンガサミットを開催したところ、世界中から177名もの漫画家が参加してくれました。漫画の魅力は世界中に突き抜けていくものであります。まんが博を各国にアプローチした中でコミュニケーションが取れ始めたのが、香港です。今年の夏は香港から連続してチャーター便が来て、たくさんの観光客が飛行機に乗って来ています。その観光客は白壁土蔵群を訪れ、それから砂丘を見て、大阪のUSJや倉敷を回って、最後は必ず鬼太郎列車に乗って帰ります。ツアーには農産物直売所も入っていて、季節のフルーツが買えると旅行客の反応も良く、鳥取を非常に楽しんでおられます。

鳥取県は、昔から国際交流、異文化交流をしている所です。妻木晩田遺跡や青谷上寺地遺跡などの遺跡から出てくる物を見ると、海の向こうとの交流があったことが分かります。例えばこの辺は鉄器がざくざく出てきますが、これは日本の技術ではありません。青谷上寺地遺跡には、大きな船の船団が描かれていて、これは明らかに海の向こう側との行き来を思わせるものです。倉吉市内からは、朝鮮半島の技術と文化であるオンドルの遺構が出

てきました。外国との交流によって古くからこの地域がつくられてきました。

世界中の姉妹都市と交流を深める

中南米への組織的な移住は1908年から始まっていますが、鳥取県でも1906年から5名に始まる自由移民の歴史があります。ブラジルとも交流を続け、県として姉妹都市、また市町村として姉妹都市が数多く結ばれています。

倉吉市と韓国羅州、三朝町とフランスのラマルー・レ・バン市、また台湾の石岡区、北栄町と台湾の大肚区、琴浦町と韓国の麟蹄郡など、正式に、あるいはそれに準ずるものとして県内各地で外国と友好提携や友好交流をしています。

鳥取県は全国でも非常に姉妹都市交流が盛んな所です。鳥取県の友好都市である韓国の江原道、中国の吉林省、ロシアの沿海地方、モンゴルの中央県といった交流先を一堂に集めて、昨春に北東アジア地方政府サミットを行い、北東アジア地域の発展について話しました。この5年前に鳥取県の境港で開いたサミットでの約束が、東海とウラジオストクを結ぶDBSクルーズフェリーが動き始めるきっかけになりました。

私はこの5つの地域をダイヤモンドのように固く結ばれた地域として概念していこうと、「ダイヤモンドクインテッド構想」と呼ばせていただいています。現実に貨客船が就航したり、美術作品の交流や、黄砂問題の研究を始めたり、また国際マンガサミットなどへ参加してもらい、こちらからも向こうの諸行事へ参加したりしています。

従来のロシア、モンゴル、中国、韓国といった地域以外にも交流エリアを広く持ち始めるべき時期に入ったかなと思います。

韓国の江原道とは平成6年に友好提携に関する協定書を締結いたしました。国際青少年芸術祝典で麒麟獅子舞を披露し、子供たちの教育交流を続け、県議会、道議会同士の交流も始まっています。

中国の吉林省にある都市とも平成6年に友好交流に関する覚書を結びました。北東アジア投資貿易博覧会に県内企業が出品したり、米子東高校のダンス部が訪れてパフォーマンスを披露したりしています。

また同じ中国で、昭和61年には、河北省という大きな省と姉妹締結をしています。以来、農業交流などを中心にやってきました。一昨年には観光教育旅行などのプロモーションに出かけたりしております。特に倉吉市を中心に活動しておられるNPO法人のサカズキネットは、毎年、中国に出かけて植林事業をされておられます。植林前は荒れ野だった所が、今は緑の大地に変わり始めています。

またロシアの沿海地方とも平成3年に覚書を結びましたが、平成22年に正式な姉妹締

結ができました。前段としてはDBSクルーズフェリーがつながるようになり、お互いに船で行き来ができるようになって、今、ロシアの沿海地方辺りで鳥取は非常に知名度が高いです。

また、ロシアのハバロフスク州という大きな州からも交流したいというお話が来まして、今では梨などの名産品を持って行って売るなどの物産交流も始まっています。

モンゴル中央県と姉妹交流をしていて、中央県ができて90周年の記念式典にも招待されて友好団が行っています。中央県と鳥取県の子供たちが隔年でお互い行き来して交流しています。

台湾の台中市とも交流していて、最近ではサイクリング、自転車の縁もでき始めています。大山周辺はサイクリングするには非常におもしろいコースで、台湾のジャイアントという自転車メーカーとタイアップして売り出せないかと画策しています。

アメリカのバーモント州とは高校生同士や大学生同士の交流があります。バーモント州は自然豊かでとても治安が良く、鳥取県と似ています。

ブラジルとは県人会同士の交流や、ブラジルから鳥取県に研修に来られるなどの交流を続けています。このたびもブラジルに県人会館をつくりました。

また、アフリカとも交流しています。例えば智頭町では寄付を意味する「コントリビューションの会」をつくって、ケニアにお米を送る活動をされています。

海外に進出してビジネスチャンスを広げる

経済のグローバル化が進み、1つの国の中だけで解決できなくなってきました。我々も産業や経済政策を立てて付いて行かなければなりません。国も経済成長戦略として、国際展開戦略を1つの柱に掲げています。国際展開戦略として経済連携を推進して、日本を売り出し、それが日本の富になって返ってくるということを構想する時代に入ってきています。

鳥取県内の企業も例外ではありません。国連の機関の広域圏江開発計画に、日本の中で唯一、鳥取県も地方政府の協議会に参加しました。ウラジオストクや韓国の江原道、中国吉林省などがその主要メンバーで、このようなことに積極的に参加して物流や人の流れを起こしていこうとしています。

米子の会社が吉林省にラーメンの店を出したり、韓国のソウルに鳥取のカフェが出店したり、澤井珈琲という西部のコーヒーショップが海外に支店を出されたほか、境港の千代むすび酒造は早くからニューヨークなどにお酒を出され、最近ソウルにも支店を出されました。

ロシアの港にも、鳥取の企業のビジネス展開を支援するサポートセンターができています。梨やスイカを持って行って販売したところ、安心安全の鳥取ブランドの評判が良かったそうです。香港でもスイカを売りましたが、マレーシアや中国産より糖度が高く、完売したそうです。

東南アジアの活力を取り込もうと、拠点づくりが全域に広がっています。鳥取県もこの秋に、タイに事務所を出そうとしています。自動車やエレクトロニクスなどの名立たる企業が東南アジアで既に事業を展開しており、鳥取県の企業も東南アジアに進出することによって、国内では取り引きできないような相手に商品売り込むチャンスができます。

香港に「ねばりっこ」と合わせて倉吉や大栄のスイカを持ち込みまして、7月に日系の量販店で300ケースぐらいを試食販売しました。9月には梨などを売りに香港に行こうとしているところです。

アメリカのニューヨークにも出かけて、県産品を総領事館で試食してもらったり、巨大マーケットやフードショーに出品したりしています。そこから、境港の企業の水産加工品が輸出されるようになりました。こうして売り込みをかけている中からヒット商品が生まれたりしています。

また世界中で認められる鳥取の製品があります。倉吉のバルコスは、イタリアのミペルという見本市で最優秀賞を取り、世界的なブランド力を得ていきました。日本セラミックの技術は、最近、注目されているぶつからない自動車に生かされています。洋服のグッドヒルはインドに工場をつくりました。山陰インド協会という組織も立ち上がっています。

自然や文化をアピールして国際的リゾートを目指す

観光の面では、中四国はまだまだ外国のお客様を取り込みできていません。鳥取県は国際的なリゾートを目指そうではありませんか。まず海外からの観光客を3万人に増やそうと、海外での観光展に出展したり、旅行会社を誘致したり、韓国のメディアに取材してもらったりしています。海外からの観光客を受け入れるために、両替所をたくさんつくりましたが、県内にはまだまだクレジットカードが使えるお店が少ないです。これは外国の人にとってはハンディキャップになります。こんなことをコツコツと変えていかなければなりません。

従来は、韓国の米子ーソウル便や定期貨客船が中心でしたが、さらに香港などほかのエリアも重点的に対象にしていこうとしています。集客のテーマの1つに「鳥取県の自然」があります。ジオパークなど、鳥取県は新しいツーリズムの宝庫とも言えます。三朝では現代湯治を始められました。また県中部ではノルディック・ウォークも盛んです。智

頭町では、「森のようちえん」や森林セラピーをされています。

漫画だけでなく、いろいろな文化が海外と共通しています。鹿野町の鳥の劇場では、中国と韓国と日本の3カ国の演劇祭が開かれました。書道や絵も共通していますし、中華コスプレ大会にもわざわざ中国や韓国の人がコスプレしに来られます。ヨーロッパの博覧会に鳥取の伝統的な工芸品を出品したところ、非常に評判が良く、鳥取の民芸が世界へ出ていきました。さらに、世界中で注目されている障害者芸術の文化祭を来年、鳥取県で開催することにしました。スポーツも世界中につながるものでありまして、トライアスロンの皆生大会がありますし、船に乗ってサイクリングしに人がやって来ます。また未来ウォークも韓国の方が毎回来られます。このようなアウトドアスポーツのメッカであります。

また、三朝町にある岡山大学の地球物質科学研究センターには、ロシアに落下した隕石が持ち込まれて分析されています。少し前には小惑星イトカワの微粒子も分析されて話題になりました。学術研究の分野でも世界とつながっています。

12月には倉吉で国際交流フェスティバルが開かれ、こうした身近な交流の場もあります。また子供たちの外国留学も増えてきておりますし、環境大学には英語村が開設されました。

鳥取県の港に大型クルーズ客船がどんどん入ってくるようになりました。今年は約20隻のクルーズ船が入ってきますし、来年は既に約30隻の予約が入っています。船の大きさも大きくなっていて、今年は、2,000人乗りぐらいの船がもう入ってきています。一度に2,000人が境港に降りて、あちこちで観光して、また船に乗って帰っていくわけですが、こういう新しい観光客が入っていることを我々としても大切にしなければいけませんし、おもてなしをしなければいけません。

また、コンテナの取扱量が急速に増えていて、昨年と同時期で比べますと3割ぐらい伸びています。こうやってどんどん世界とのつながりが深まっていることを私たちは感じたいと思います。

いにしえの人、ソクラテスの言葉にこういう言葉があります。「私はアテナイ人ではない、ギリシャ人でもない、世界市民である」。これが現代の私たちの共通の言葉になり始めていると思います。